



次のステップ

この章は、次の項で構成されています。

- [Cisco Prime Network Registrar の設定 \(1 ページ\)](#)
- [Cisco Prime Network Registrar の使用 \(2 ページ\)](#)
- [サーバの起動と停止 \(3 ページ\)](#)
- [サーバのイベントロギング \(5 ページ\)](#)
- [REST API の無効化 \(5 ページ\)](#)

Cisco Prime Network Registrar の設定

Cisco Prime Network Registrar のインストール後、次のタスクを実行できます。

- Cisco Prime Network Registrar の概要：『[Cisco Prime Network Registrar 11.0 クイックスタートガイド \(Cisco Prime Network Registrar 11.0 Quick Start Guide\)](#)』を参照してください。
- DHCP アドレス、DHCP フェールオーバー、および DNS 更新のセットアップ：『[Cisco Prime Network Registrar 11.0 DHCP ユーザーガイド \(Cisco Prime Network Registrar 11.0 DHCP User Guide\)](#)』を参照してください。
- 権威 DNS サービスとキャッシング DNS サービスのセットアップ：『[Cisco Prime Network Registrar 11.0 キャッシュおよび権威 DNS ユーザーガイド \(Cisco Prime Network Registrar 11.0 Caching and Authoritative DNS User Guide\)](#)』を参照してください。
- ローカルとリージョナルの管理、などの管理タスクを実行します。『[Cisco Prime Network Registrar 11.0 アドミニストレーションガイド \(Cisco Prime Network Registrar 11.0 Administration Guide\)](#)』を参照してください。
- CLI による Cisco Prime Network Registrar の設定と管理：『[Cisco Prime Network Registrar 11.0 CLI リファレンスガイド \(Cisco Prime Network Registrar 11.0 CLI Reference Guide\)](#)』を参照してください。
- REST API による Cisco Prime Network Registrar の設定と管理：『[Cisco Prime Network Registrar 11.0 REST APIs リファレンスガイド \(Cisco Prime Network Registrar 11.0 REST APIs Reference Guide\)](#)』を参照してください。

Cisco Prime Network Registrar の使用

インストールしたローカルクラスタとリージョナルクラスタを管理するには、スーパーユーザー管理者を作成し、適切なライセンス情報を入力する必要があります。これを行うには、Cisco Prime Network Registrar に初めて接続するときに、次の手順を実行します。

ステップ 1 Cisco Prime Network Registrar の Web UI または CLI を起動します。

- Web UI にアクセスするには、Web ブラウザを開き、HTTPS（セキュアログイン）の Web サイトを使用します。

```
https://hostname:https-port
```

値は、次のとおりです。

- *hostname* はターゲットホストの実際の名前です。
- *https-port* はデフォルトの HTTPS ポートです（ローカルの場合は8443、リージョナルの場合は8453）。
- CLI を起動するには、次のように入力して `nrcmd` を起動します。

```
install-path/usrbin/nrcmd -R -N username -P password
```

作成する管理者アカウントのユーザー名とパスワードを指定します。スーパーユーザー管理者アカウントを作成する必要がある場合は、パスワードの確認を求められます（初回ログイン時）。

(注) `-R` は、リージョナルクラスタに接続する場合にのみ指定します。

ステップ 2 ユーザー名とパスワードを入力して、スーパーユーザー管理者を作成します。

- Web UI : [管理者 (Admin)] フィールドと [パスワード (Password)] フィールドにそれぞれユーザー名とパスワードを入力します。次に、[追加 (Add)] ボタンをクリックします。

ステップ 3 デフォルトでは、スマートライセンスは Cisco Prime Network Registrar 11.0 で有効になっています。アラートウィンドウの [スマートライセンスの設定 (Configure Smart Licensing)] リンクをクリックして、[スマートソフトウェアライセンス (Smart Software Licensing)] ページを開き、スマートライセンスを設定します。詳細については、『Cisco Prime Network Registrar 11.0 アドミニストレーションガイド』の「Cisco スマートライセンスの使用 (Use Cisco Smart Licensing) 」の項を参照してください。

従来のライセンスを使用する場合は、スマートライセンスを無効にする必要があります（『Cisco Prime Network Registrar 11.0 アドミニストレーションガイド』の「スマートライセンスの無効化 (Disabling Smart Licensing) 」の項を参照してください）。次に、[従来のライセンスの使用 (Use Traditional Licensing)] をクリックし、次のようにライセンス情報を入力します。

- Web UI : [参照 (Browse)] をクリックし、ライセンスファイルを探します。
- CLI : 次のように、ライセンスファイル名の絶対パスまたは相対パスを入力します。

```
nrcmd> license create filename
```

(注) リージョナルクラスタにライセンスを追加する必要があります。つまり、リージョナルを最初にインストールする必要があります。ローカルクラスタは、最初のログイン時にリージョナルクラスタに登録する必要があります。リージョナルクラスタに追加されたライセンスに基づいて、ローカルのサービス (dhcp、dns、および cdns) を選択できます。

ステップ 4 ステップ 2 で作成されたスーパーユーザーのユーザー名とパスワードを入力して、Web UI と CLI にログインします。

他の管理者アカウントを作成して、割り当てられたロールに基づいて特定の機能を実行することができます。詳細については、『*Cisco Prime Network Registrar 11.0 アドミニストレーションガイド*』の「管理者の管理 (Managing Administrators)」の章を参照してください。

サーバの起動と停止

インストールが正常に完了し、サーバを有効にした場合は、マシンを再起動するたびに Cisco Prime Network Registrar の DNS サーバおよび DHCP サーバが自動的に起動します。

TFTP サーバの場合、次の Cisco Prime Network Registrar CLI コマンドを使用して、ブートアップ時に再起動できるようにする必要があります。

```
nrcmd> tftp enable start-on-reboot
```

クラスタ内のすべてのサーバは、Cisco Prime Network Registrar のリージョナルサーバエージェントまたはローカルサーバエージェントによって制御されます。サーバを停止または起動するには、サーバエージェントを停止または起動します。

サーバの停止と起動の詳細については、『*Cisco Prime Network Registrar 11.0 アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

インストールまたはアップグレードが成功すると、Cisco Prime Network Registrar サーバーが自動的に起動します。システムを再起動する必要はありません。

サーバーを起動および停止するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 SuperUser としてログインします。

ステップ 2 start 引数を指定して nwreglocal スクリプトまたは nwregregional スクリプトを実行し、サーバーエージェントを起動します。

ローカルクラスタの場合

```
# systemctl start nwreglocal
```

リージョナルクラスタの場合

```
# systemctl start nwregregional
```

ステップ 3 Cisco Prime Network Registrar サーバーのステータスを確認します。次のコマンドのいずれかを実行します。

```
# ./cnr_status (install-path/usrbin ディレクトリで使用可能)
```

または

```
# systemctl status nwreglocal (ローカルクラスタの場合)
```

```
# systemctl status nwregregional (リージョナルクラスタの場合)
```

ステップ 4 stop 引数を指定して nwreglocal スクリプトまたは nwregregional スクリプトを実行し、サーバーエージェントを停止します。

ローカルクラスタの場合

```
# systemctl stop nwreglocal
```

リージョナルクラスタの場合

```
# systemctl stop nwregregional
```

ローカル Web UI を使用したサーバの起動または停止

ローカル Web UI でサーバーを起動または停止するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [操作 (Operate)]メニューから、[サーバ (Servers)]サブメニューの[サーバの管理 (Manage Servers)]を選択して、[サーバの管理 (Manage Servers)]ページを開きます。

ステップ 2 DHCP サーバ、DNS サーバ、CDNS サーバ、TFTP サーバ、BYOD サーバまたは SNMP サーバを起動または停止するには、[サーバの管理 (Manage Servers)]ペインでサーバを選択し、次のいずれかを実行します。

- [サーバの起動 (Start Server)] ボタンをクリックして、サーバを起動します。
- [サーバの停止 (Stop Server)] ボタンをクリックして、サーバを停止します。

ステップ 3 サーバをリロードするには、[サーバの再起動 (Restart Server)] ボタンをクリックします。

リージョナル Web UI を使用したサーバの起動と停止

リージョナル Web UI でサーバーを起動または停止するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [操作 (Operate)]メニューから、[サーバー (Servers)]サブメニューの[サーバーの管理 (Manage Servers)]を選択して、[サーバーの管理 (Manage Servers)]ページを開きます。

ステップ 2 SNMP サーバーを起動または停止するには、[サーバーの管理 (Manage Servers)]ペインでサーバーを選択し、次のいずれかを実行します。

- [サーバの起動 (Start Server)] ボタンをクリックして、サーバを起動します。
- [サーバの停止 (Stop Server)] ボタンをクリックして、サーバを停止します。

ステップ3 サーバをリロードするには、[サーバの再起動 (Restart Server)] ボタンをクリックします。

サーバのイベントロギング

Cisco Prime Network Registrar を起動すると、システムアクティビティのロギングが開始されます。サーバは、デフォルトで次のディレクトリにすべてのログを保持します。

- ローカルクラスタ : /var/nwreg2/local/logs
- リージョナルクラスタ : /var/nwreg2/regional/logs

ログをモニタするには、**tail -f** コマンドを使用します。

REST API の無効化

Cisco Prime Network Registrar 11.0 をインストールするか、以前のバージョンから 11.0 にアップグレードすると、REST API はデフォルトで有効になります。REST API を無効にする場合は、次の手順を実行します。

ローカルおよびリージョンの詳細 Web UI

- ステップ1 [操作 (Operate)] メニューの [サーバー (Servers)] サブメニューで [サーバーの管理 (Manage Servers)] を選択して [サーバーの管理 (Manage Servers)] ページを開きます。
- ステップ2 左側の [サーバーの管理 (Manage Servers)] ペインの [CCM] をクリックします。[ローカル CCM サーバーの編集 (Edit Local CCM Server)] ページが表示されます。このページには、すべての CCM サーバー属性が表示されます。
- ステップ3 [制御設定 (Control Settings)] セクションで、[is-rest-enabled] 属性値を [false] に設定して REST API を無効にします。
- ステップ4 [保存 (Save)] をクリックして、変更内容を保存します。

CLI コマンド

REST を無効にするには、**ccm disable is-rest-enabled** を使用します。

REST を有効にするには、**ccm enable is-rest-enabled** を使用します。

